

UGSAS-GU NEWSLETTER

岐阜大学大学院連合農学研究科

2018年1月～12月

第8回 植物病理学 シンポジウム (3月7・8日)

Innovative Crop Protection International Symposium

本研究科において、植物病理をテーマにシンポジウムを開催しました。

最初に、千家正昭研究科長の挨拶、鈴木文昭岐阜大学理事（国際・広報担当）の歓迎メッセージの後、マリアノ・マルコス州立大学のシャーリー学長（フィリピン：連合農学研究科修了生）の特別招待講演があり、その後2日間にわたって、名古屋大学の千葉壮太郎特任准教授、農研機構中央農業研究センター病害研究領域グループ長の吉田重



信博士及び岐阜大学の須賀晴久准教授、清水将文准教授による基調講演やIC-GU12加盟大学関係者及び在外の連合農学研究科修了生の応募者から選抜された外国人研究者18名（インドネシア、タイ、バングラデシュの修了生10名を含む）による植物保護技術に関する最新の研究成果の発表があり、質疑応答を含め活発な研究討論が行われました。

なお、この様子は静岡大学にテレビ会議システムで配信されました。

また、岐阜大学の植物病理学関連の研究室に所属する学生及び教員の計10名、国費外国人留学生13名（うち1名は静岡大学）と名古屋大学の学生1名がポスター発表を行い、参加者は総勢97名となり、有意義なシンポジウムとなりました。

第6回 国際会議 (10月16日)

International Roundtable Meeting

本研究科にて、南部アジア農学系博士課程教育連携コンソーシアム加盟校（日本を含む南部アジア地域8カ国18大学）（以下、IC-GU12という）への新加盟を希望する2大学（バングラデシュ農業大学、マリアノ・マルコス州立大学）による第6回農学系博士教育国際連携円卓会議を開催しました。

JR岐阜駅前のじゅうろくプラザにおいて、加盟校の副学長やリエゾン教員を含む総勢58名の出席のもと、IC-GU12新加盟大学2校の加盟調印式や「農学系博士教育の質の保証と社会貢献の向上を目指す国際連携活動」の一環である「ダブルPhDディグリープログラム」と「サンドイッチプログラム」の進捗状況等についての総合討論が行われました。



最新情報

- 2019年 ジョイント・ディグリー・プログラム開始予定
- IC-GU12に新たに2校が加盟
バングラデシュ農業大学（バングラデシュ）
マリアノ・マルコス州立大学（フィリピン）

NEWSLETTER(電子版)

第7号発行にあたり

岐阜大学大学院連合農学研究科（UGSAS-GU）修了生、在学生、教員の皆様、本研究科では昨年も色々な新しい取り組みを行い、大きな進展がありました。まず、6月には文科省よりインド工科大学グワハティ校とのジョイント・ディグリー・プログラムの設置が認可され、来年度から新たに国際連携食品科学技術専攻が発足することになりました。また、10月に開催した第6回IC-GU12円卓会議では、バングラデシュ農業大学（バングラデシュ）と、マリアノ・マルコス州立大学（フィリピン）が新しくメンバー大学として認められ、平成24年度に発足した南部アジアにおける協働教育コンソーシアム

（IC-GU12）は8カ国18大学にまで発展しました。国内では3月に植物病理学、10月に動物科学の国際シンポジウム、12月にはインドネシアのランポン大学において作物生産学の国際ワークショップを主催し、本学の若手教員と海外で活躍する本研究科修了生との研究交流を通じて、研究ネットワークの構築に努めました。このような試みは着実に成果をあげており、本年度は、定員20名を大きく上回る計32名（内、留学生19名）の優秀な入学生を受け入れることができました。本号では、このような本研究科の特色のある活動を国内外で活躍する皆様にご紹介致します。本研究科のグローバル化に向けた新しい展開に対して貴重なご意見を頂ければ幸いです。

岐阜大学大学院連合農学研究科長



千家正昭

第9回 国際シンポジウム (10月17・18日)

Animal Production and Conservation for Sustainable Development

本学連合大学院棟において、2日間延べ112名の参加のもと、動物の生産性を支配する諸事項をテーマに国内の研究者5名の基調講演及び国内外の研究者13名の研究発表が行われ、より深い研究討論を行いました。なお、当日は構成大学の静岡大学農学部へテレビ会議システムで配信され、静岡大学配置の本研究科学生も活発な質問を行いました。

18日午後から本学の流域水環境リーダー育成プログラムと共催にて、参加者61名のもと、学生26名によるポスターセッションが行われ、優秀発表学生4名にポスター賞が授与されました。



国際シンポジウムポスター賞受賞者

HEND ALTAIB: D1

RAJ KISHAN AGRAHARI: D2

FENG WENZHUO: D3 (水環境リサーチ)

SHAO HUIJUAN: D3 (水環境リサーチ)

連合農学研究科 学位記授与式

3月13日、9月21日に、岐阜大学講堂にて学位記授与式が挙行されました。

平成30年3月～12月の学位記授与者数:

3月 9名 (うち留学生5名) 学長表彰1名

9月 11名 (うち留学生10名)

12月 1名 (うち留学生1名)



第6回 国際ワークショップ (インドネシア: ランボン大学 12月3・4日)

Crop Production and Productivity under Global Climate Change

IC-GU12加盟大学であるランボン大学 (インドネシア) にて、国際ワークショップを開催しました。本企画は、大学のグローバル化と現地産業界との交流の推進を目的とし平成26年度から実施しています。

初日は、全4セッションに渡りメインテーマに関連した研究発表が行われ、第一セッションでは、本会の実施責任者であるブストミ教授より開催の背景と経緯についての紹介、ハスリアディ学長、イルワン農学部長からの式辞、千家正照研究科長から開催にあたっての謝辞と開会宣言がありました。第二及び第四セッションでは、Great Giant Foods (GGF) 社のルーキト副部長をはじめ、本研究科の嶋津光鑑准教授、田中貴助教、乃田啓吾助教、ランボン大学のデュイ博士、アグスティニ氏による基調講演。第三セッションでは、3つのパラレルセッションが設けられ、本研究科のツシ氏を含む24名の発表があり、濃密な質疑応答が行われました。閉会にあたって、平松研研究科長補佐 (国際担当) が本ワークショップを総括し、総勢200名の参加者にて成功のうちに終了しました。その後、ランボン市庁舎にて交流会が催され、ランボン市長らと今後の連携方策について意見交換がなされました。



2日目は、ランボン市中心部より車で2時間ほど離れたGGF社に赴き、ルーキト副部長の案内で、GGFの広大なフィールドを視察し、パイナップル加工工場やバナナのパッキングハウス、残渣利用によるバイオガス発電施設を備えた大規模プランテーション会社の現状について説明を受け、問題解決に向けた産学連携の可能性について議論を深めました。

連合農学研究科 入学式

4月13日、10月5日に、平成30年度入学式が挙行されました。平成30年度入学者数:

4月 21名 (うち留学生8名)

10月 11名 (うち留学生11名)

IC-GU12 ニュース

・11月27・28日

スプラス・マレット大学 (インドネシア) と共催で

The 3rd International Conference on Climate Change (ICCC) を開催



受賞一覧2018

浅野早知, 河村奈緒子, 今村彰宏, 鈴木健一, 石田秀治, 安藤弘宗 (2018) グロブ系列スフィンゴ糖脂質プローブの合成と細胞膜ナノドメインの分子基盤解明研究. 第37回日本糖質学会年会 第21回日本糖質学会ポスター賞

伊藤弘樹, 小林佑理子, 藤田美紀, 井内 聖, 小林正智, 小山博之 (2018) AtALMT1のアルミニウム誘導を制御する転写因子STOP1内部の調節領域に関する研究. 日本土壌肥科学会2018年度神奈川大会ポスター発表 ポスター賞

浅野早知, 河村奈緒子, 田中秀則, 今村彰宏, 鈴木健一, 石田秀治, 安藤弘宗 (2018) 細胞膜微小領域の構造・機能解明に向けたグロブ系列糖脂質プローブの開発と挙動解析. 糖鎖科学中部拠点 第15回「若手の力」フォーラム 2018年糖鎖科学中部拠点奨励賞

浅野早知 (2018) 見えない分子が「一個ずつ」見える! ~細胞の顔「糖鎖」の実体を探る~. 未来を拓く地方協奏プラットフォーム 未来博士3分間コンペティション2018 3分間で未来を拓く! プレゼンテーション部門 グローバルチャレンジ賞

Noriaki Nakajima, Kazuya Doi, Sae Tamiya, and Masato Yayota (2018). Potential of diverse pasture for improving physiological and immunological status in grazing cattle. The 7th Japan-China-Korea Grassland Conference. Young Scientist Award